

支援を受けたチャイルドのストーリー

支援を受けて立派に成長し、  
縫製で身を立てられるようになりました

ハミラさんはンゲレンゲレ地域で生まれ育ちました。両親は伝統的な農法で農業を営んでいましたが、収穫は少なく、ハミラさんや兄弟が十分に食べることもままならない貧しい暮らしだったと言います。

しかし、この地域でンゲレンゲレ拡大地域開発プログラム(以下、ADP)の支援が始まり、農業の技術研修に参加した両親は、近代的農法を学び、実践しました。この結果収穫量が増え、ハミラさんたちがお腹いっぱい食べられるようになっただけでなく、余った作物を売ったお金で服や学用品を買うことができるようになりました。

小学校を卒業後、ハミラさんは縫製を学ぶため6カ月間の職業訓練コースに参加しました。この費用は両親が作物を売ることによってねん出してくれたと言います。縫製を学んだハミラさんは、ADPからミシンを提供してもらい、縫製の仕事を始めました。服を売って得た収入は、ADPの貯蓄融資組合に貯金しています。必要な時に組合から融資を受けて、布など材料を購入し、さらにビジネスを拡大する知恵も身に付けました。

「私のように直接支援を受けた子どもだけでなく、地域の大勢の人々がADPによって助けられました。私たちがより良い生活への道を見出せるように助けてくださったご支援者の皆さまに、心から感謝しています。」ハミラさんは笑顔で話してくれました。



支援によって提供されたミシンで色とりどりのドレスを縫うハミラさん(24歳)

ADPスタッフよりごあいさつ

— 長きにわたるご支援に感謝します —

私は貧しい人々の役に立ちたいと思い、ADPで働き始めましたが、元々この地域で生まれ育ったわけではなく、初めて赴任したときは外国に来たかのような感じでした。毎日多くの村々を回り、住民との関係構築に励みました。ライオンや象が生息する深い森の中も進んでいきました。当時は未舗装なのでぼこ道を自転車で何日もかけて走り、豪雨の中、道中の村々に泊まりながら日本から届いた手紙をチャイルドに届けたこともあります。あまりに過酷な環境のため、同僚の多くが途中で去ってしまいました。不便で危険な支援地で苦勞する私の姿を見て、家族は「なぜそこまでするのか?早く帰ってきなさい」と言い、私自身も一人で何度も涙を流しました。そんなとき私を励まし、繋ぎ止めてくれたのはここで出会った子どもたちです。彼らの顔を思い浮かべると、置き去りにすることはできませんでした。

この20年間でンゲレンゲレ地域は大きく変わりました。1990年代にこの地域を訪れた方は、現在の様子を想像することはできなかったでしょう。皆さまに支援の終了をご報告できることを嬉しく、誇りに思います。ご支援くださったお一人おひとりを神様が豊かに祝福してくださいますように。長きにわたるご支援に心より感謝申し上げます。



1996年から20年間ンゲレンゲレ拡大ADPのスタッフとして働いてきたエリーニ・ムスヤ

# 皆さまのご支援により、地域が変わり、子どもたち

## 教育



就学率、出席率、修了試験の合格率が大幅に向上



笑顔で勉強を楽しむ子どもたち（現在の様子）

## 保健衛生・HIV/エイズ対策



地域保健サービスが拡充され、HIV/エイズの感染予防も進んでいます



支援により建設されたカウンセリング・検査センター。  
住民が無料かつ匿名で、カウンセリングとHIV検査を受けることができます

### 成果

#### ■ 小学生の就学率

84.0% **》 98.0%**  
(1998年) (2013年)

#### ■ 初等教育修了試験の合格率

22.4% **》 50.9%**  
(2007年) (2015年)

右の表の通り、ADPはこの20年間で地域内の小学校全21校に対して多くの支援を届けてきました。支援開始前には地域内で中学校に進学する子どもはごくわずかでしたが、今では大学に進学する子どももあり、希望ある未来へ向かって勉強に励んでいます。

支援内容	数量
教室	108
教員住宅	23
机	1,059
教科書	3,000
雨水貯水タンク	24

支援開始前の小学校の様子



### 成果

#### ■ 施設で分娩する母親の割合

14.9% **》 71.6%**  
(1999年) (2013年)

#### ■ 5歳未満児の予防接種率

40.0% **》 89.2%**  
(2002年) (2013年)

支援により診療所5カ所が新設、3カ所は修繕され、地域住民に保健サービスを提供しています。地道な啓発活動の成果もあり、施設で分娩する母親の割合は向上し、予防可能な病気で亡くなる子どもの数は減っています。また、HIV感染予防のため、住民の間でピア教育（同世代や同じ境遇の人々の間で啓発教育を行う手法）を推進し、95人の担い手が養成されました。40人の宗教指導者にも研修を行い、HIVの新規感染を食い止め、住民の間でHIV/エイズとともに生きる人々への偏見がなくなるよう啓発しています。

診療所で診察を受ける親子



# が「豊かないのち」を生きられるようになりました



## 水資源開発

輝くほどきれいな水が  
人々の健康と生活を支えています



支援地域内のすべての村に井戸が掘られ、安全な水が湧き上がっています



## 農業・生計向上

農作物の生産高が向上し、1日3回  
食事ができるようになりました



収穫したトマトを頬張る子ども

### 成果

浅井戸**37**基、深井戸**22**基を設置

「水は命です。日本の皆さん、本当にありがとう。」どこへ行っても、地域の人々は安全な水が届いた喜びを口々に語ります。支援開始前、井戸はほとんどなく、人々は汚れた川の水を生活用水や家畜のために使わざるを得ませんでした。支援により浅井戸37基、深井戸22基が掘られました。また、40人の水道技術者が養成され、各村には水管理委員会も結成され、井戸のメンテナンス体制も整いました。以前は腸チフスやコレラといった水を媒介とした感染症も蔓延していましたが、今ではこれらの病気に苦しむ人々はほとんどいなくなっています。

支援開始前、人々は乾期になると干上がった川の底を掘って水を得ていました



### 成果

■ 1日3回食事ができる家庭の割合

39.1% **》** 82.3%  
(1998年) (2015年)

子どもたちが健やかに成長していく上で、家庭の生計が安定することは不可欠です。住民の大半が小規模農民であるこの地域で、ADPは農業技術研修、改良種子、肥料、農機具などを支援し、農作物の生産高は大幅に向上しました(下の表を参照)。農作物を販売して収入を得るだけでなく、1日3回食事ができる家庭の割合は39.1%(1998年)から82.3%(2015年)まで向上し、子どもたちもしっかりと栄養を摂れるようになりました。

品目	1996年	2015年
メイズ (トウモロコシ)	500-700kg	2,000-2,600kg
ひまわり	200-500kg	1,000-1,200kg
ソルガム (モロコシ)	0-200kg	900-1,200kg

1エーカーあたりの生産高

ADPは灌がい用ポンプを30台支援しました。支援開始前、ポンプは地域に1台もありませんでしたが、今では合計で100台を超えるポンプ(支援分含む)が稼働しています



# 皆さまとともに歩んだ20年間 — たくさんの笑顔が生まれました



## World Vision

この子を救う。未来を救う。

### 支援開始当初の主な課題

農業技術と知識の低さ、天候被害(干ばつ、洪水)による慢性的な食料不足  
農業用水および安全な飲用水の不足  
医療施設の不足、予防可能な疾病の罹患率およびHIV感染率が高いこと  
教室、机、イス、教員住宅の不足と教育の質が低いこと



#### 第1期(1996-2000)

- ADP委員会の組織化、村のリーダーたちに対する指導力強化、道徳・倫理に関する研修
- 村落保健員や伝統的助産婦に対する能力強化研修
- 小学校の教室、職員室、教員住宅の建設(第3期まで継続)
- 浅井戸、深井戸の掘削(最終期まで継続)



以前はンゲレンゲレ地域への赴任を避ける教員ばかりでしたが、住環境を整えることで教員の確保に努めました

#### 第2期(2001-2005)

- 診療所の建設(第3期まで継続)
- 地下貯水タンク建設(ンジャネ小学校、サンガサンガ小学校)
- HIV/エイズ教育(地域保健局や宗教指導者と協力した住民への啓発活動)
- 農業支援(第3期まで継続)



ADPの支援により完成した診療所



地下貯水タンクの水を喜んで使う子どもたち(ンジャネ小学校)

#### 第3期(2006-2010)

- 水管理委員会への研修
- 蚊帳の配布、マラリア予防キャンペーン
- HIV資料センター開設、HIV感染予防のためのピア教育推進



2009年のスポンサーツアーの様子

#### 支援卒業準備期(2011-2015)

- 貯蓄融資組合の普及
- 養蜂、魚の養殖、農業などに従事する収入向上活動グループの強化
- 各村の小学校に雨水貯水タンクを設置



貯蓄融資組合の活動の様子




キサンガ・スタンド村の小学校に設置した雨水貯水タンク

### 地域住民の声



ガマリエリ・トミーさん(初代ADP委員会代表、写真左。右はADPのエリーニ スタッフ)

ワールド・ビジョン(以下、WV)がイスラム教徒の多いこの地域を初めて訪れたとき、住民の多くがWVに対して強い反感と疑念を抱いていました。しかし、宗教に関わらず本当に支援を必要としている家庭や子どもを支え、村々に教室を建設し、井戸を掘っていったことで、住民のWVに対する見方も大きく変わりました。WVはこの地を去りますが、今ではより多くの子どもたちが健康に暮らし、住民は地域の発展のために積極的に協力するようになりました。WVが蒔いてくれた種が、村々で花開いています。

いっしょに幸せになろう。  
チャイルド・  
スポンサーシップ

#### お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359 e-mail:dservice@worldvision.or.jp ホームページ:www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しています。ホームページにぜひお立ち寄りください。